常磐毎日新聞

日刊

六月十二日　夕刊

定價　一部金貳錢　一ヶ月金五拾錢　郵稅五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　福島縣平、長橋町三五　坂本忠治
發行所　常磐毎日新聞社　電話　六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社　（振替口座）東京　四〇二一〇番

本紙々面擴張——

四頁制斷行

大型機械を新設し既に準備は成る！

市制とタイアップして大飛躍の本社計劃發表

郷土新聞はその地方文化の代表機關である。此の見地に基き今や市制實施の進展を見たる平市の郷土紙たる本紙は市勢の軌道に順應せんが爲め紙面を現在の二倍大に擴張して近く四頁制を斷行する。既に本社の姉妹機關たる常磐毎日印刷株式會社は十六頁の大型印刷機の据付を了し、その精能を發輝せんと正に待機の姿勢を取つて居る。斷然舊套を脱して飛躍する本紙が如何に新市民たる愛讀者各位の好伴侶であらうかを御期待載き度ひと同時に、此の發展を見るに至る間の各位の甚大な御援助を衷心より深謝します。

常磐毎日新聞社

天氣豫報

今晩は北東の風雨模様

明日は北東の風曇時々雨

優勝の榮冠を目指す壯圖へ

磐中、平商携へて

縣下中等學校体育大會の前哨戰——濱通り中等學校の陸上競技大會は既報の如く愈々明十三日午前八時半から双葉中學グランドに開催されるが磐中平商兩競技部は共に榮冠を目ざし當日各係り教諭に引卒され平發午前六時で出發する事になつた、兩校に於ける出場選手は左の如くである

△磐中（百米）二年畑谷敏雄、四年渡邊武治（二百米）二年松本力、四年渡邊武治（四百米）四年佐藤貞雄、五年小野忠弘（八百米）五年小野忠弘、同齊藤利男（八百繼走）渡邊、畑谷、松本、佐藤（五千米）三年古口雲平、五年阿久津高（棒高跳）四年山崎文雄、五年伊藤清（走巾跳）四年菅原勝郎（走高跳）二年松本力、四年菅原勝郎（三段跳）三年武藤義紀、四年菅原勝郎（砲丸投）五年小野富房

△平商（百米）三年久保木清次、四年賀澤清、（二百米）四年上田一政、五年渡邊清吉（四百米）三年平田五郎、四年泉満（八百米）四年松澤武吉、五年金成久吉（八百繼走）久保木、上田泉、西山（五千米）三年坂本尙平、五年古市勝美（棒高跳）三年山家博光、五年西山正之（走巾跳）三年酒井道夫、四年賀澤清（走高跳）三年中野一、五年西山正之（三段跳）三年中野一三年比佐一

軟式野球豫選

明日の組合せ決定

既報休協石城支部主催郡下一般大衆軟式野球大會平方部豫選は明十三日午前八時半から平商、平第一兩球場に開催されるが組合せは左の如くいづれも優勝を目ざし連日猛練習を行つてゐたゞけに白熱戰を豫想される

△平商球場

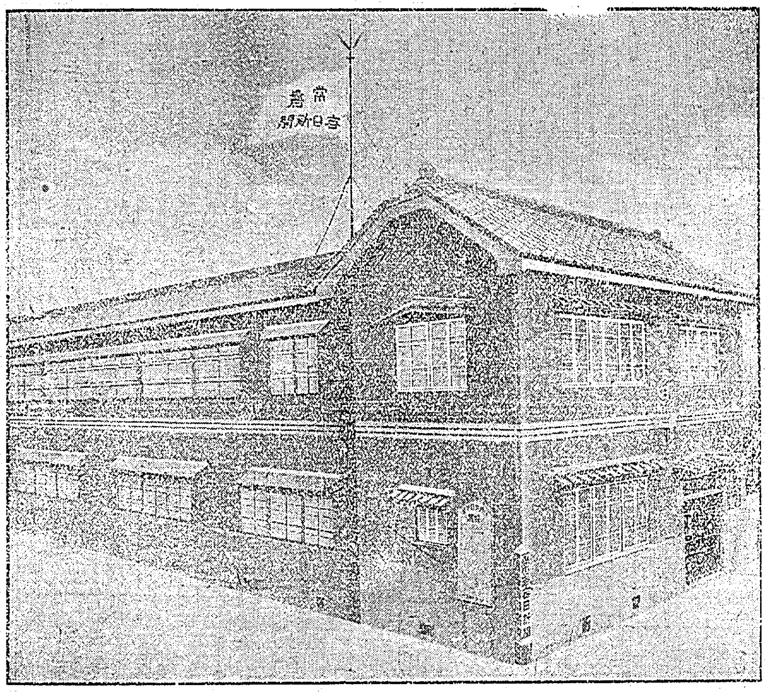
平OB　不戰一勝
櫻畔——平東掌
隈田川　不戰一勝
綴クラブ——平バロー

△平第一球場

平驛チーム　不戰一勝
オール平窪——平遊友
古河——磐炭綴支部
好間ノンキ　不戰一勝

竈修繕の詐欺に懲役

既報竈を修繕してやるとて二百餘圓を騙取した宮城縣登米郡米谷町字六町一五九生れ目下住居不定前科二犯左官職長澤松吉（四〇）に係る詐欺事件の公判は今十二日午前十時から平區で野木判事係り櫻井檢事立會の下に開廷されたが檢事から懲役一年六ケ月を求刑された、判決言渡しは來る十四日午前九時



破產事件の山田代議士が來平

抗告の準備か

（既報）横濱市辨天通り丸文生糸問屋渡邊文三郎氏の申立により平區中島監督判事から破產の宣告を受けた代議士山田六郎氏はこれに抗告の準備と善後策を講する爲め今十二午前七時三十二分着磐越線で來平

八巻署長

十三日に來任

原田警部補はけふ

平警察署の初代警視署長八巻胞太郎氏は明十三日午後二時五十分平着で家族同伴着任するが須賀川から警部補となつて平署に榮轉の原田久保氏は今十二日着任した

橋本訓導出發

昨報樺太廳に出向を命ぜられた平第二校訓導橋本正雄氏は來る十五日平發午後一時五十八分で出發赴任すると

佛教善華會主催

花祭り兒童大會

平市佛教善華會は釋尊の誕生を祝つて明十三日の日曜午前九時から第三小學校講堂におはなし兒童大會を開くが市制實施祝賀を兼ねた催しで土產品等もあり兒童の樂園を出現するであらうとプログラムは左記の如くである

（第一部）來賓着席、開會の辭司會者桐原英純、君ヶ代合唱、歎佛式淨土宗、祝辭平市長吉沼銖太郎（第二部）お話小高舒明、お話川崎小島、繪話西村隊信、閉會の辭司會者、萬歲三唱

十錢安値

昨日の共販

石城販賣購買利用組合の俵米定期共販は昨十一日執行、最高は勿來の十二圓三十三錢、最低が夏井鹿島の十二圓十二錢で前回に比し平均十錢の安値となつた、各地方の値段は左の如くである

△平一號一二、一五同二號一二、二五△大野一二、一五△夏井一二、一二△高久一二、一九△草野一二、一七△餘野一二、一八△神谷一二、一六△鹿島一二、一二△渡邊一二、一七植田一二、二〇△勿來一二、三三

口腔の檢査

平第一校の口腔檢査は既報の如く今十二日から開始された

路上に轉る

拔身の刀

石城郡豐間村薄磯漁夫鈴木勇は九日夜漁業からの歸途同村地內縣道で双渡一尺七寸五分の拔身のギラ／＼した日本刀を拾ひ平署へ屆出たが時節柄物騷な拾ひ物で遺失物か盜難品か分らぬ爲め各方面に照會中

投票の買收を依賴

久之濱の惡質違反

昨十一日執行された久之濱町の町會議員に立候補した久之濱町字本町海產物商木村善五郎（五〇）氏は過般來平刑務所に收容されて石合檢事の取調べを受けてゐたが今十二日選擧違反で起訴來る十六日公判開廷される

同人は去る五月二十四日午後五時頃、同町農鈴木ヒデ（五〇）方を訪れ養子廣吉（四二）と同人の實父阿部利三郎、兄伊之助及び內縁の夫田山子之吉等四名の投票買收を依賴二十圓を手渡したものである

尙前記鈴木ヒデ外五名も昨十一日石合檢事が馬上書記と共に出張取調べの結果犯行明白となり直ちに引致刑務所に收容された

小麥菜種販賣統制

平町で協議

本年度の小麥及び菜種の販賣統制についてその實行方法並びに計劃內容を徹底せしむる爲め十八日平市に全販聯、縣販購利聯、縣信聯、縣農會から係員出張、集荷販賣、金融に就いて協議會を開くと

無錢で飲食

既報去る四日夜市內四丁目裏料理店高野家事大越タカさん方で七圓餘の無錢飮食を働いた前科二犯のルンペン豐間村鹽屋町生れ佐藤勝正（二七）は其後平檢事局で石合檢事の取調べを受けてゐたが今十二日詐欺罪で起訴された、公判は來る十四日野木判事係りで開廷される

小名戸數割

小名濱町の戸數割賦課額は四萬四千八百八十四圓で最高八百五十三圓七十錢、最低一圓廿錢、平均廿一圓六十二錢で昨年度より總額に於て二割一分の增であると

新陣容の市役所

毎週各課主任協議

陣容を整へ面目一新した平市役所は行政事務の刷新を圖る爲め今後毎週土曜日に各主任會を開く事になつたが今十二日午後一時から市會議堂に第一回協議會を開いた

內務省土木技監

郡下工事を視察

內務省辰馬土木技監は十六日河合土木課長の案內で自動車を驅り四倉港、仁井田川、夏井川、小名濱港、江名港、藤原川、鮫川等の工事を視察すると

姉が洗濯中に

「幼い妹は溺死」

石城郡湯本町八仙入山炭礦坑夫佐々木德三三女くに（二）は十一日午前八時頃姉みつが自宅裏の小川で洗濯してゐる附近で遊んで居る內小川に顚落溺死した

磐女の排球

磐女は明後十四日放課後二年のクラス對抗排球試合を催す由

磐中柔道指導

磐中柔道部は明後十四日午後一時から發覗廳及び拓殖大學教師大谷六段及び加藤、島田兩四段を招き同校道場でコーチを受けるが一般の來會を歡迎する

在鄉軍人會員募集

在鄉軍人平市分會は來る十六日福島支會から矢野主事と瀬川主事補を迎へ幹事會を開き會員募集に就いて懇談する

平市人事

回婚姻

△双葉郡富岡町大字小濱字深谷二六吉原英夫（三〇）氏中平窪字岩間三二平田サタ（三〇）さん

回死亡

△才槌小路四目下東京市淀橋區柏木五丁目一〇六七堤四郎氏二男武司さん

平職業紹介所

回求人の部

△女工　四十歲迄　給料面談　尋卒程度
△鐵工　三十歲以下　給料面談　尋卒程度
△採炭夫　十八—四十才迄　日給一圓五十錢
△印刷工　年令不問　尋卒程度
△土工夫　教育年令不問　委細面談　尋卒以上　日給一圓二十錢
△人絹工　十六—二十五才迄　日給六十錢以上　高卒程度
△雜夫　教育年令不問　日給七十錢
△牛乳配達　三十才位　給料面談　高卒程度
△人絹工　二十才　高卒

回求職の部

△採炭夫　二十九才　高卒
△鐵工　三十一才　尋卒
△女工　十三才　尋卒
△雜夫　二十二才　高卒
△土工夫　四十九才　尋卒
△漁夫　三十才　高卒
△女中　十六才　高一修
△女中　十九才　女子青年學校卒　裁縫行儀等を見習得る家庭

JOHK

今晩の部

▼後六、〇〇　趣味講演「朝鮮のお茶」稻葉君山
▼後六、三〇　幼兒の時間「メダカの旅行」オヘナシクラブ
▼後七、三〇　趣味講話「田植唄の話」小寺融吉
▼後八、〇〇　俚謠「田植唄」山形縣南村山郡村木澤村蓮中他、山形、東京、金澤、岡山、鳥取、廣島、宮崎より
▼後八、五〇　浪花節二題「加納淸次」木村友衛
▼後九、三〇　時報ニュース　氣象通報　番組豫告

明日の部

▼前七、〇一　時鳥を聽く　生駒山髮切慈光寺附近中繼
▼前九、三〇　子供の時間「解説付管絃樂」ベートヴェンの「田園交響曲」日響
▼前一〇、〇〇　日曜勤行　上野寛永寺中繼
▼前一〇、四〇　講演「有害植物特に烏頭の毒成分に就て」森尾森一
▼前一一、二〇　趣味講話「鳩はどうして巢に歸るか」小熊捍
▼後〇、〇五　經濟使節訪米記念日米國際放送
▼後〇、五〇　新人放送　1國民歌謠　宇治田政夫、宇田千鶴子　2詩吟　竹田稅治、阿久津振　3哥澤　宮竹リエ　4歌謠曲　黑田禎一、菊田一男　5長唄　中島彦六
▼後一、五〇　映畫劇の午後　1「坊ちやん重役」日活連　2「お孃さん」PCL連　3「乙女十九」新興連
▼後四、二〇　大相撲大阪場所…大阪大國技館中繼
▼後六、三〇　滿洲より「兒童劇と唱歌」大連西崗子公學堂兒童
▼後七、三〇　日曜特輯ニュース演藝　BK文藝課編
▼後八、〇〇　ピアノ獨奏　クロイツアー
▼後八、三〇　歌謠曲　上原敏、山中みゆき
▼後八、五〇　ラヂオドラマ「春の水」杉村春子、河村弘二

謹告

別項發表の通り當新聞が四頁制斷行の爲め本社は工場改築、ステロ裝置、大型印刷機新設、新活字購入等總べての準備成り、內容全く一新、印刷工場としての最善の技能を發輝し得るに至りました、此際市制實施に依り、御名刺、封筒、書簡箋、其他御新調の爲めの御註文は特に入念大勉强を以つて奉仕致します故、何卒至急御用命を願上ます。

尙紙價暴騰の折柄ではありますが在庫品の品切れとなりません間は値上げを致しませんから御註文はお早い程結構で御座います

常磐毎日印刷株式會社
平市長橋町
電話六三〇番
振替東京四〇二一〇番

市原醫院
平市田町　電話一一四番
內科　小兒科　外科　梅毒淋病
市原卯太郎　市原三三男
▣入院隨時

白柄劍風連

大島多慶夫作
井川洗厓畫
[illegible] 市川長春 [illegible] 村瀬容映

……一七五……

別離（十二）

抒平の柵の蔭から、ヌッと現れた人影。

五左衛門は思はずぎよつとして一歩退いた。

「誰ぢや」

五左衛門はすこしも油斷なく刀の鯉口もとを撫げてじつと闇をこらして、その怪しい人影を見守つた。

「俺ぢや。貴公も御見知の浪人大惣寺源太でござる」

と、源太はのそり／＼と五左衛門の方へ寄つて來た。

「おゝ。貴公か」

五左衛門はやうやく安堵したやうに、普通の態度に戻つた。

近くで犬が烈しく吠いてゐるのが何となく世の物騒さを思はしてゐるやうに聞く。

「これから貴殿は小石川の御屋敷まで戻られるつもりかな」

「左樣」

五左衛門の答へは極めて冷靜であつた。源太は瞬きもせずに暫くに五左衛門をみつめてゐたが、いかにも氣の毒さうな顔の色が、次第にその顔に現れて來た。

「貴殿は御屋敷にまだ御內儀や御子息が居られるものと思つて居られるのか」

「何？」

「もう小石川の屋敷には誰も居らん」

「もしや俺は公儀から……？」

「今朝のことぢや、到頭家族御召し、の上に御內儀や御子息は御六天町の松平殿母屋に御預けに相成つて居る」

「やつぱり」

と、五左衛門は[illegible]してはゐたが、先刻但馬守殿の話では、既にさうした樣子がないので[illegible]へてゐたのであつた。しかも、それが實現されたといふので、五左衛門は暗い地獄のなかへ投げ込まれたやうに感じた。

源太も慰める言葉がないやうに、天を仰いで稍久しく[illegible]としてゐたが、漸くに言葉をついだ。

「五平氏。しかし、決して公儀に對して恨はしい心を起されては相成らん」

「えつ。馬鹿な、伊豆守殿はもう俺のためには不倶戴天の敵ぢや」

「いや。ところが、さうではない。罪は罪といたして[illegible]また功は功といたして貴公のために[illegible]はれた」

「何」

「實を云ふと。俺は伊豆守殿の御明斷によつて、貴公を御赦免せて貰つたのぢや」

「然らば貴殿に聞く。伊豆守殿はどんな特別の計ひをされたのぢや」

「たとへば御內儀や御子息を松平殿母屋殿に御預けになつたことも一例であるが、俺に命じて貴公に重大な使命をもたらされたのが何よりの證據ぢや」

「使命とは……？」

「まづそれに先立つて伊豆守殿から預かつて參つたものがある」

と、源太は懷中から[illegible]に包んだ資金を取出して五左衛門の前へ差出した。

「これぢや」

「うむ」

一分間二キロメートルも 飛ぶ傳書鳩

何にでも應用される

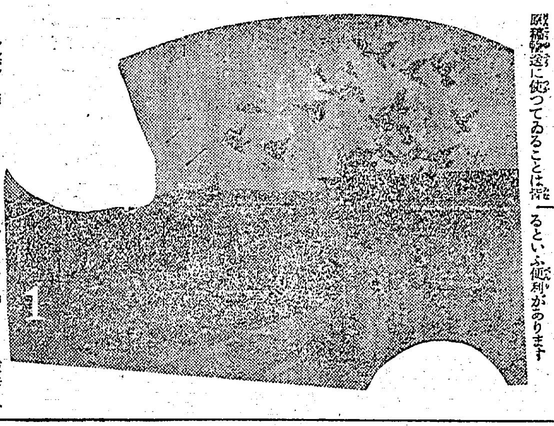
近ごろの話題の一つ――傳書ばと――平和のシンボルであるとともに、通信機關の前衛をつとめさらにイザといふときには、勇敢な戰士として働くはと、それについて御紹介致しませう――日本の大新聞社でも通信や寫眞原稿輸送に使つてゐることは皆さん御承知の通りです

□

日本では、大正七八年、陸軍がこの飼育をはじめ、イザといふときの準備を考へて民間にも普及するやうにはかつたのであります、もつとも、京阪地方では、これよりずつと古く明治二十七、八年頃既に民間で遊戯として傳書ばとを飼つてゐました、それが、電話電信などが急に發達したため一時わすれられてゐました

處ががその後歐州大戰で、機械通信がまつたく用をなさなくなつた時、傳書ばとがすばらしい働きをしたところから、再び、各國ともにこれに注意をはらふやうになつたのであります、いま世界中で一番多く傳書ばとをかつてゐるのはベルギーで、その數ザット一千萬、これについではフランス、イギリスが各二百萬、ドイツが百萬、アメリカが五十萬となつてをります、日本では、民間ではとは全國で七萬羽位です

鳩のの用途はイザといふ場合はいふまでもなく、平時は趣味として親しやうに使用し、アマチュア達が、其遠力の競爭をさせて品種の改良をはかります、實用方面としては、新聞社通信用はずつと古くから使つてゐますが新しい方面としては、漁業に傳書ばとをもちひて、漁船からその日の收穫の樣子を豫め報告するなど又山岳、ハイキング、キャンプ、鐵道の保護などにも盛んに使はれるやうになりました、鐵道の保護で傳書ばとが、非常に役立つわけは――たとへば或る地點の鐵道に故障がおこつた場合、電信であるとその現場の状態を言葉（文字）で報告するよりほかありませんが傳書ばとでは、通信ながら地形の略圖や大體の目標などを挿入出來るといふ便利があります



傳書ばとの速力は普通一分間一キロで、訓練の仕方によつては二キロ位は飛ぶことが出來ます、いふまでもなく天候の影響は受けますが、天氣晴朗ならば實によく飛びます、雨天になるとずつと速力が下つて來ることはいたし方ありません、なほ傳書ばとの大敵は「はやぶさ」で、このためにかなりな數の可憐なはとたちが年々命をおとします

健康法

○養生の法は多藥を用ひず、たゞ飲食を節し、慾をすくなくし七情を正し「六氣を防ぎ、平心和氣、寒暑從順、起居をつゝしみ、動靜を時にす。かくの如きのみ

（貝原益軒）

鹽のお話

イー皆さん、この所にまかり出ましたのは、海の中よりまゐりましたる鹽でござる。

今日は一ツ、身の上ばなしをいたしたう存ずる。まづそれがしは海の水の中に、まじつてゐたものにござる。

その水の中から鹽をとる所を、鹽田と申して、砂の上になんども海の水をかけると、鹽が砂につく。その鹽をあらひおとして、釜のカマデにつめると、かく申す鹽が出來るのでござる。

支那のやうな、暑い所へまゐると天日鹽と申して、海邊で、暑い日に照らされて、ひとりでに出來る鹽もござる。けれどこれは、暑い所だけでどこでも出來るわけではござらぬ。

おつぎは、ソレ支那の奧地といふ所にまゐると、大きな湖の水がひあがると、そこ一面に、厚さ一メートル程の鹽がたまるでござる河原の砂でもひろふやうに、われもわれもと車につんで、ひいて行くのでござる。

まだある〳〵。ソレ岩鹽と申して、地のなかに眞つ白い岩のやうな鹽がござる。ルーマニヤと申す國では、この鹽を掘つた穴が、大きな〳〵町になつてお店や、宿屋もあるといふことでござる。なんとおどろくではござらぬか。

お汁や、漬物に鹽をつかふことは、皆さんもよく御存じではござらうが、その他石鹼や、サラシ粉をはじめタンサンソーダや、戰につかふドクガスなどをつくるにも鹽がなくては出來ないのでござる皆さん、なんとびつくりしたではござらぬか。

大砲の力比べ

（問）大砲の口徑を十六インチとか十二インチとか數字であらはしますが、その力くらべを數字的にはつきりさせるには、どうしたらわかりますか

（答）たとへば十六インチ砲と十二インチ砲とがあるとして十六インチは十二インチ砲にくらべて、どのくらゐ割合の強さを持つてゐるか――それを計算するには次のやうな方法があります、それは大砲の口徑を三度かけあはせた數字で比較すればいゝのです、十六インチならば

16×16×16＝4069

となり、十二インチは

12×12×12＝1728

となります、この二つの數字を比較することによつて四インチの相違のために、十二インチ砲の二倍よりも強いことがわかります

大人の歌

赤い顏した父さんは
あちらへヨロ〳〵千鳥足
自分のお家へついたとき
いつぱい涙を浮べてた
「私は言譯きゝません」
「これからお酒は飲みません」
やさしいお家の母ちゃんよ
仲よく遊んでやつとくれ

病氣のライオンと不思議な森の池

マラリヤの良藥發見

熱い南洋のある島の森です。一匹のライオンがゐました。

ライオンは百獸の王樣として、大きな顏で四方にむかつてほへかけ、どこへ出かけるにもノツシノツシと何一つ恐れるものもなく、森や草原を自由に歩きまはつて愉快に暮してゐました。

だが、ある時ライオンはフトした病氣にかゝりました。

ライオンは病氣にかゝつてみるといくら強いとは云へ、心配になりました。

といふのはライオンが愉快にくらしてゐたのは強くて他の動物をおさへてゐられたからで、ライオンが病氣だといへば、すぐにも彼におそひかゝらうとする動物が四方八方に彼を取かこんでゐたからです。

ライオンはこまつてしまひました。がある時のこと、暑さに疲つて何心なく森の池に入りました、すると、どうでせう？氣持がスーツと好くなつて忽ち元の樣な元氣になつて來たではありませんか。

これを木かげから見てゐたのはその邊りの土人でした、土人はライオンを生捕りにしてくれやうとおもつて待ちかまへてゐたのが、とても元氣になつたのを見て、これは不思議とライオンが去つたあとでその池の水を味はつてみました、とても苦い〳〵味です。

その後土人が病氣にかゝつたとき、その水を飲んだところ忽ち治つてしまひました。

これは妙だとよく見ると池にキナ〳〵といふ木が倒れてゐます。この木の皮を水にとかして飲んだから、やはり熱病によく利いたのです。

池の水が病氣をなほしたといふのはこの木のせいであるとわかりました。

ライオンも一旦病氣はなほつたけれども段々人間にかなはなくなつてゆきました。

この森の木こそは、今でもマラリヤ熱に使ふキナ皮なのです。

子供の俳句

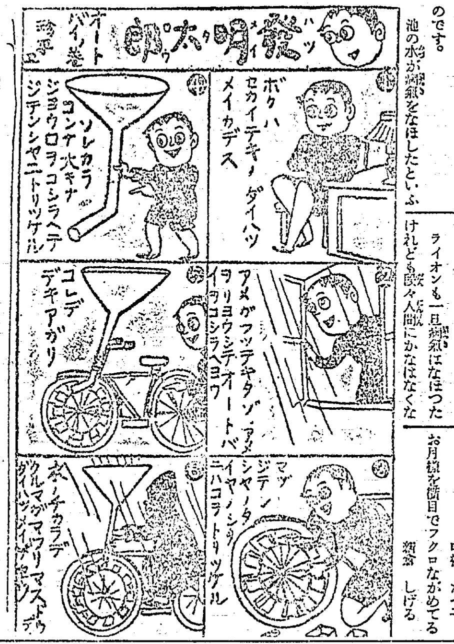
麥刈れてひばりが引こしていつた　原田 小太郎

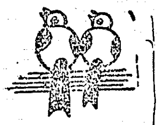
お月樣きげんがよいとまんまるだ　近藤 くに男

なくすゞめ舌を切られた姿を見た　上田 利一

眠かくて居眠りしてるねむの花　中村 かづ子

お月樣を横目でフクロながめてる　新倉 しげる


發明太郎
オートバイノ卷
ボクハセカイテキノダイハツメイカデス
ソレカラコンナ大キナジヨウロヲコシラヘテジテンシヤニトリツケル
アメガフツテヤタゾ、アメヲリヨウシテオートバイヲコシラヘヨウ
コレデデキアガリ
マヅジテンシヤノタイヤノシタニハコヲトリツケル
ホーチカラデクルマヲマワシテオートバイ



おくれて來た小鳥

むかし〳〵森の女王樣が御家來の小人を御召しになつて「今日中に、いろ〳〵な小鳥の羽根へみんな色をぬつておやり」とおつしやいました。

それまでは美しい羽根色の小鳥は一羽もゐなかつたのでした、小人さんは繪筆と繪の具を充分に用意して陽のあたゝかくさす切り株に腰をおろしました。

小鳥たちは澤山あつまつて來て一羽宛小人さんの前の小さい木の枝にとまつて赤や黄や青やいろんな色で美しく羽根を染めてもらひました。

ところが夕方近くなつて小人さんの繪の具がすつかりなくなりかかつたころ、何處かの野原で遊びおくれた小鳥が一番ビリ等にやつて來て小人さんに云ひました。

「私も何か一色ぬつて頂けますか？」

その時小人さんは答へました。

「イヤ、もう繪の具がカスばつかりになつちやつたからお前を一色にぬつてやることは出來ないよ、お前がこんなにおくれてくるからわるいんだ」

「ほんとにさうでした」

小鳥は答へる言葉もないので、だまつて小首を、かしげてゐました。

それをみると小人も何だかこの小鳥が可哀さうになりましたので、すぐかういつてやりました。

「いゝよ、心配しなくともいゝよ繪の具が足りないから一色にはぬつてやれないけれど、こゝにすこしづゝのこつてゐる色をみんな使つてお前の羽根にきれいな、しまを描いて上げやう」

そこでその小鳥はどんなにうれしかつたでせう――むらさきや青や黄色にぬられた自分の羽根がどんなにほこらしかつたでせう。

「さあもういゝよ」

と云はれるが早いか一聲高くお禮をのべて力一杯夕日の輝く野原の方へとんで行きました。

皆さん何鳥でせう？

護れ太平洋の波

……第一七五……

正覺坊（二）

寺島 柾史 作
村瀬 香 畫

『諸君へ……』

『なにも、そんなにおどろくことはないぢやないか。わしと一緒に艦中の生活を樂しむのも惡くはないぜ』

ピコルは、意味ありげに笑つた

× × ×

また、アメリカ無敵艦隊が、北洋で大演習をはじめた。今度の大演習よりも、こんどの演習の方が大がゝりだつた。大西洋艦隊は、既に太平洋に回航して以來、ずつと太平洋岸に居据つてゐたので、事實上、北洋から南洋へかけての大演習とみる方が妥當であらう。

この太平洋大演習とは、何のかゝはりもなく、ピコルたち一行の十名を乘せた、遊覽船キヤナダ丸が、悠々閑々として航行をつゞけた。

何のかゝはりもなくといふが、その實、こんどの大演習とは、密接な關係があると取沙汰する新聞も多かつた。……そこには、何かしら深い因縁があるとみるのは、見る方の僻みだと一笑に附し去るわけにもいかない。

遊覽船キヤナダ丸は、內燃機關は五百馬力の、三角形の縱帆をいくつもつけた二本檣の古風な帆船だ。ピコル汽船會社が、特にその社長のためにつくつた船だから、外觀が古風でも船の構造、內燃機關、船室の設備、みな至れり盡せりで、科學の粹をあつめたものである。

キヤナダ丸には、主人のピコルのほかに、いろんな顏觸れが乘組んでゐる。官界、財界の名士をはじめ、實業家も、作家も、文士も、藝術家も、醫者も、ありとあらゆる階級が、自由の國アメリカを象徴するやうに、自由に、和やかに乘組んで、甲板も、船室も、娛樂室も、映畫劇場も、みな花園の樣に美しく華麗で、しかも賑やかだつた。何しろ、アメリカ切つての財界の大立物が、そのアメリカ一流の人々を招待しての、國際的意味をむさぼるところの北洋遊覽であるから、豪奢を盡し、贅を極めてゐる。

キヤナダ丸は、ヴアンクーヴアーを出帆してから、ずつてカナダ西岸に沿うて北上し、途中プリンスルパート、カアドウア等に寄港しそれから、アラスカ半島に沿うてやゝ西南に航首を向けコールド灣の方面に進んだ。

そこは、アメリカ無敵艦隊の根據地だ。いくらピコルの船でも、艦隊の根據地に寄港することを避けなければならない。そこで、コールド灣を横眼にみて、さらに航海をつゞけ、アカタン灣に向つたのである。

ピコルは、朝風を樂にうけながら、正確な步調で甲板をあるいてゐた。お客はまだ、いくらも起きてゐるものはなかつた。後尾甲板に二三人、左舷に二三人、チラホラと姿をみせてゐるだけで、早朝の甲板は、極めて靜かだつた。

ピコルは、コツ〳〵と甲板をあるいて、やがて船橋の通信室を訪れた。そこは、無線室とは違つた古風な通信室だつた。

扉を叩くと、晩年のマルコポロに生寫しな……かれはそれを意識してゐる――通信員、わかり易くいふと傳書鳩のお守り役シセル爺さんが、ぬつと顏を出した。

『お早よう』

ピコルは、朗かに挨拶した。

シセル爺さんは、いさゝか狼狽して、

『は、はいお早ようございます――』

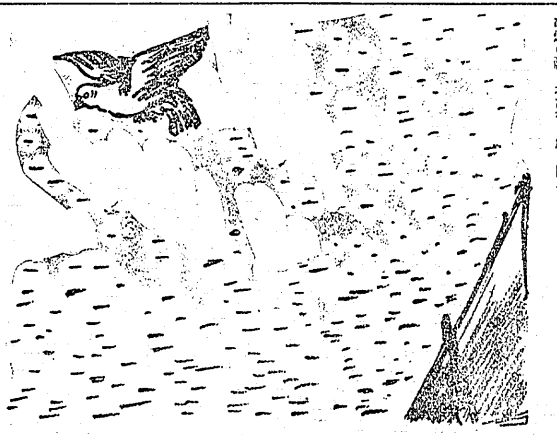
と、ぺコ〳〵頭を下げた。自負心のないマルコポロだ。

『これをたのむ』

ピコルは、シセル老人の鼻先へ一葉の電信紙を突きつけた。

『はい、かしこまりた』

マルコポロのシセル爺さんは、それを受取つて、小さな筒におさめ、鳩舍の中から、もつとも敏速を誇る第四號鳩を取出し、紅い愛らしい肢に結びつけた。」



季節…料理
江戸前
鳥・あわび
うなぎ
蒲燒
仕出 迅速
魚榮
平市田町（電話四二四番）

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六（電話一七〇番）

旅館 大手館
私は平町出生ですから特に鄕里の皆樣方の爲に御便利を圖ります
主人 比佐棟雄
東京上野驛前（下谷郵便局橫通角）
電話下谷六七七番

開業
齒科一般
平市田町（安濟醫院向）
齋藤齒科
東京齒科醫學士 齋藤賢三

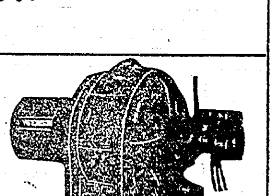
美味！芳醇！
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

高島易斷所
人事百般
地相 家相 運勢
野澤定象
平市堂の前

國旗と提灯
[illegible]

吉田眼科醫院
平紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

モートル 變壓器
販賣、修理
合資會社 佐藤鐵工所
平市月見町
電話三六二番



夏物は
是非！
當店から
（在庫富豊）

玉屋洋品店
平田町通 電話六五六番

初夏の氣分と
行届いたルーム
お出をお待ち致します。
珈琲と御食事
平市銀座通り
グリル・バツカス
電七〇二
女店員募集――全部給料制度
品位ある方を望む
經驗無き方も良し……。

產科婦人科專門
平市南町五二
根本醫院
（手術室完備）（入院隨時）
根本莊次郎
根本貞雄
電話三十四番

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士 鈴木正男
平市田町（電話五八番）藤田女學校前
入院のお需めに應ず
自炊の便あり

胃腸を害ね或は下痢をしたり或は三日も四日も便通がなくて頭痛を覺える御方はキヽメの早い
靈効散 胃腸藥
を御試し下さい
胃腸病、心臟病、腦、痰ニ適應藥
三年五年と患ふ慢性胃腸病が全快した人が澤山あります御望の方には見本一日分を差上げますから御遠慮なく御來局下さい
平市古鍛冶町一〇縣社ノ下
處方箋調劑所
阿康藥局
定價（五十錢 八日分、壹圓 廿日分）
電話四四番
振替口座東京三〇〇六六番
御子樣方には飲み易い小兒靈効散があります。

齒科口腔外科
レントゲン科
院長 東京齒科醫學士 原精一
電話三一一番
平市[illegible]橫通
原齒科醫院

喜多流謡曲と仕舞のお稽古をお奬め致します
入會隨時
喜多流 謡曲 仕舞
白土會
平市田町六九
電話一二七番

御用は！
セメントは常陸
大谷建材店
平紺屋町（電三六六番）